

# EUROPEAN PATENT OFFICE

## Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 2003081252  
PUBLICATION DATE : 19-08-03

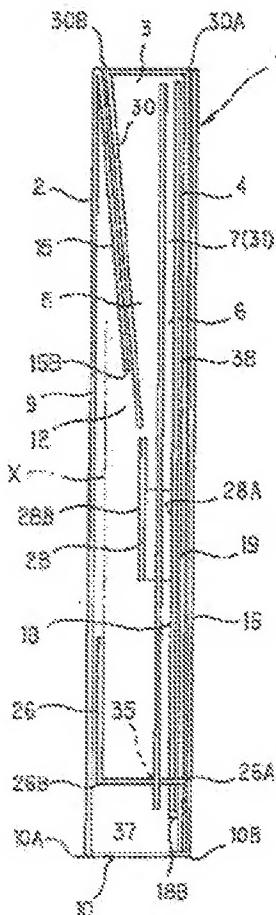
APPLICATION DATE : 10-09-01  
APPLICATION NUMBER : 2001272924

APPLICANT : SONY CORP;

INVENTOR : KUBATA RYUJI

INT.CL. : 865D 5/38 B65D 5/49 B65D 85/57

**TITLE : STORING CONTAINER**



**ABSTRACT :** PROBLEM TO BE SOLVED: To enable a plurality of storing items to be stored in an item storing space between a front surface plate and a rear surface plate without being contacted to each other of an inner case slidably inserted into an outer case.

**SOLUTION:** At least one partition plate operating in the same manner as that of an inner case is inserted into an item storing space between a front surface plate and a rear surface plate of the inner case.

COPYRIGHT: (C)2003,JPO



(00)日本国特許庁 (JP)

(02) 公開特許公報 (A)

(01)特許出願公開番号

特開2003-81252

(P2003-81252A)

(03)公開日 平成15年3月19日 (2003. 3. 19)

(51)Int.Cl. F21C 3/00 識別番号  
B65D 5/38  
5/49  
55/57

F 1  
B65D 5/38  
85/57  
S/48  
F  
F  
F-コード(参考)  
Z 3 E 0 3 6  
C 3 E 0 6 0  
1 0 1 A

審査請求 未請求 請求項の数 8 OL (全 9 頁)

(00)出願番号 特願2001-272924(P2001-272924)

(71)出願人 000183473

千葉セントラル株式会社

東京都新宿区市谷彭町原町11番地

(02)出願日 平成13年9月10日 (2001. 9. 10)

(71)出願人 000002165

ソニー株式会社

東京都品川区北品川6丁目7番6号

(72)発明者 三井 記室

東京都新宿区市谷彭町原町11番地 千葉セントラル株式会社内

(74)代理人 100061780

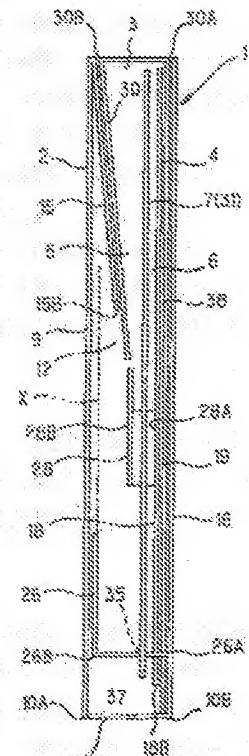
弁理士 市川 雄吉 (外2名)

最終頁に續く

(54)【発明の名称】 収納容器

(57)【要約】 本発明は、内ケースを複数枚持つ外ケースの構造に関するものである。  
【課題】 外ケース内に複数自在に挿入されている内ケースの、正面板と背面板との間の物品収納空間に複数の収納物品を互に接触しないよう区分して収納できるようにすること。

【解決手段】 内ケースの正面板と背面板との間の物品収納空間に内ケースと同寸半動する少なくとも1枚の区画板を挿入する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】外ケース内に、その1側端の開口部から引き出し可能に内ケースが収納されている収納容器において、

内ケースの物品収納空間が、引き出し時に内ケースに導かれて同一挙動を示す別体の少なくとも1枚の区画板により、複数に区画されている収納容器。

【請求項2】内ケースの正面板と背面板とが各下端縁の連続部たる屈曲部で連続させられ、区画板の下端縁が前記屈曲部の内側に当接させられている請求項1記載の収納容器。

【請求項3】背面板の下端寄り位置から、正面板の前面と対峙する折曲片が延設されており、各区画板の下端が該折曲片の折曲部内側に当接させられている請求項1に記載の収納容器。

【請求項4】外ケース内にその1側端の開口部から引き出し可能に内ケースが収納されている収納容器において、

両側板を欠く内ケースが正面板とその下端に連続する背面板とで構成されており、正面板の少なくとも1端縁には、正面板に折り重ねられる区画板が延設されている収納容器。

【請求項5】正面板の上縁が、最後列の区画板の上縁より上位か、最前列の区画板の上縁より下位のいずれか一方の位置に設定され、各区画板は、前列の区画板の上縁が後列の区画板の上縁より低くなるごとく設定されている請求項1ないし請求項4の何れかに記載の収納容器。

【請求項6】両側板を欠く内ケースが、正面板とその下端に連続する背面板とで構成されており、該正面板と区画板との、少なくとも何れか1枚の板体の少なくとも1端縁から、収納物品の抱持片が延設されている請求項1ないし請求項5の何れかに記載の収納容器。

【請求項7】正面板及び各区画板には、少なくともその1端縁に斜め上向きに抱持片が延設されている請求項1ないし請求項6の何れかに記載の収納容器。

【請求項8】内ケースの正面板、各区画板には、外ケース内面と干渉しない上部外周周縁のそれぞれ異なる位相位置に、それぞれの収納物の表示耳片が設置されている請求項1ないし請求項7の何れかに記載の収納容器。

【発明の詳細な説明】

### 【0001】

【発明の属する技術】本発明は、コンパクトディスク等の記録用媒体、写真、カード類、板状小形物品等を複数収納するための、主として厚紙製の収納ケースに関する。

### 【0002】

【従来の技術】前記記録用媒体その他の板状小形物品等を収納する従来の収納ケースは單一の板状小形物品を収納するものが主流であり、2枚以上を並べて収納すると、記録部成は印画面等に損傷を生ずる恐れがあり、こ

れを防止するため特開2000-25870号公報に示されるごとく、2組の収納ケースを長さ方向に連続させたものも提案されているが、格ち遊び、保管、収納物の取り出し等の面で使用感に問題が存する。

### 【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、従来の記録用媒体等の板状小形物品の収納ケースの前記問題点に鑑み、1個の収納ケースの物品収納空間を、区画板で前後に重なる複数区画に区分し、各区画に収納された物品が互に接触しないようにすることを課題としている。

### 【0004】

【課題を解決するための手段】前記課題を解決するため、請求項1の発明では、外ケース内に、その1側端の開口部から引き出し可能に内ケースが収納されている収納容器において、内ケースの物品収納空間が、引き出し時に内ケースに導かれて同一挙動を示す別体の少なくとも1枚の区画板により、複数に区画されているという構成要件とした。

【0005】請求項2の発明では、請求項1の発明に、内ケースの正面板と背面板とが各下端縁の連続部たる屈曲部で連続させられ、区画板の下端縁が前記屈曲部の内側に当接させられているという構成要件を付加した。

【0006】請求項3の発明では、請求項1の発明に背面板の下端寄り位置から、正面板の前面と対峙する折曲片が延設されており、各区画板の下端が該折曲片の折曲部内側に当接させられているという構成要件を付加した。

【0007】請求項4の発明では、外ケース内にその1側端の開口部から引き出し可能に内ケースが収納されている収納容器において、両側板を欠く内ケースが正面板とその下端に連続する背面板とで構成されており、正面板の少なくとも1端縁には、正面板に折り重ねられる区画板が延設されている構成要件とした。

【0008】請求項5の発明では、請求項1ないし請求項4の何れかの発明に、正面板の上縁が、最後列の区画板の上縁より上位か、最前列の区画板の上縁より下位の、いずれか一方の位置に設定され、各区画板は、前列の区画板の上縁が後列の区画板の上縁より低くなるごとく設定されている構成要件を付加した。

【0009】請求項6の発明では、請求項1ないし請求項5の何れかの発明に両側板を欠く内ケースが、正面板とその下端に連続する背面板とで構成されており、該正面板と区画板との、少なくとも何れか1枚の板体の少なくとも1端縁から、収納物品の抱持片が延設されている構成要件を付加した。

【0010】請求項7の発明では、請求項1ないし請求項6の何れかに記載の発明に、正面板及び各区画板には、少なくともその1端縁に斜め上向きに抱持片が延設されている構成要件を付加した。

【0011】請求項8の発明では、請求項1ないし請求

項7の挿れかえの発明項に、内ケースの正面板、各区画板には、外ケース前面と干渉しない上部外側周縁のそれぞれ異なる位相位置に、それぞれの収納物の表示耳片が突設されているという構成要件を付加した。

## 【0012】

【発明の実施の形態】図1ないし図8は、請求項1ないし請求項3、請求項6ないし請求項8の各発明を併せ適用した実施の一例を示しており、収納容器1は、図8に暗示的断面図として示すごとく、外ケース2内に、その一側縁の開口部3から内ケース4が引あだし可能に収納され、内ケース4内にコンパクトディスク等の記録用媒体、等真、カード類、線状小形物等の物品収納室4をもが、区画板7により区画形成されている。

【0013】前記外ケース2は、図1に示されるプランク8から折り畳み。接着によって図2に示す形状に成形されており、正面板9の右端に、底板10が山折線10A、10Bを介して連続させられ、正面板9の両端には区画板11、12が、それぞれ山折線11A、11B、12A、12Bを介して連続させられ、両側板11、12の各外縁に接着部13、14延経されている。

【0014】正面板9の上端縁には、内ケース4の引き出しストロークを所定額に限定する係止片15が延設されており、底板10には外ケース2の背面板16が延設されており、前記接着部13、14により正面板14の背面に接着され、また係止片15は正面板14と背面板16との接着に先だって、山折線15Aにより正面板9の裏面側、図1において正面板へ折曲され、図2に示す正面形状とされる。

【0015】内ケース4は、図3に示されるプランク17から折曲形成されるもので、内ケース4の正面板18は背面板19の下端20に谷折線18A、18Bで連続させられており、また背面板19の下端20と、正面板18の谷折線18A、18Bの形成されている下端21(図8においては正面板18の上部)との連続部分の中央域には、左右に間隔を保して竪方向に切り込まれたスリット22、23と、該スリット22、23の図3において下部を連結するスリット24とにより背面板19の下端寄り位置25から後述するごとく正面板18の前面(図3においては背面側)と対峙する折曲片26が切り出されて延設されている。

【0016】正面板18において、中央と、谷折線18A、18Bとの間の両側には外側方へ抱持片27、28が延設され、また図3において正面板18の下縁の右側には表示耳片29が外側方へ突設されている。なお抱持片は正面板18の左右何れか一方にのみ延設されていてもよい。

【0017】前記折曲片26は谷折線26A、26Bにより、後述するように正面板の前面(図3では背面)と対峙するよう折曲され、抱持片27、28もそれぞれ山折線27A、27B、28A、28Bにより、後述する

ように正面板18の前面(図3では背面)と対峙するよう折曲される。

【0018】背面板19の上部には2条の谷折線30A、30Bを介して内ケース4の側板片30が形成され、前記谷折線30A、30Bで折曲されて背面板17の上部に重ねられる。また背面板19の略中央には、背面板19の側縁と対応する山折線19Aが形成されており、収納物取り出し時に背面板19を後方へ折曲せらる。

【0019】内ケース4は、プランク17から次の手順で折曲形成される。即ち抱持片27、28を各谷折線27A、27B、28A、28Bにおいて、裏面裏側へ折り返し、次いで正面板18を谷折線18A、18Bで背面板19の前面と重なるよう折り返し。次に折曲片26を各谷折線26A、26Bで、先に折曲した正面板18の前面と対峙するよう折曲する。この折曲手順で折曲された内ケース4が図4に示される構造であり、前覆片30が谷折線30A、30Bで正面板18の裏面側へ折曲されることにより、図8に断面図として暗示した構造のものとなる。なお、図3中、正面板18の略中央には谷折線18Cが形成されており、収納物取り出し時に正面板18を前方へ折曲せらる。

【0020】図5は、区画板31の実施の一例であり、図4に示される内ケース4の正面板18の抱持片27、28から上部と同一形状の主板32の下部両側に脚片33、34が下垂され、脚片33、34の間に、下端縁35が凹設されている。図示例では区画板31の全高Hは図3に示す正面板18の全高Hと均等とされ、また主板32の外周縁には、正面板18の表示耳片28と位相を異にして表示耳片36が突設されている。また符号31Aは収納物取り出し時に区画板31を前屈させる谷折線である。

【0021】前記区画板31は、図7、図8に示すごとく、内ケース4の正面板18と抱持片27、28との間に挿入され、区画板31の下端縁35が折曲片26の谷折線26A、26Bで区画された黒歛部37の内側に当接されて定位されている。この区画板31の挿入位置は、図8に示される内ケース4の正面板18と背面板19との間の空間38であってもよく、この場合には、脚片33、34の下端が正面板18と背面板19との連続部たる谷折線18A、18Bによる黒歛部の内側に当接されて定位させられる。

【0022】前記抱持片27、28の位置と延長方向とは、収容物を安定して支持できる限りは、請求項1の発明では格別の限定は無いが圖3、図4に示されるごとく、請求項7の差別により、組め上向きに延設することが丸形のコンパクトディスク等を収納する際、収納姿勢の安定のために好ましい。

【0023】この抱持片37、28の折曲方向は、図示例では図4に示すごとく、内ケース4の正面板18の前

面と対峙するよう折曲してもよいことは勿論である。

【0024】また区画板31は、図示例では1枚使用しているが同一形状のものを複数枚使用することも可能であり、また区画板31に抱持片を延設してもよく、正面板18と区画板31との何れか一方にのみ抱持片を延設する構成でもよい。

【0025】図6は異なる実施例たる区画板39を示しており、図6に示す区画板31の脚片33、34に相当する脚片40、41が略矩形状に垂下した形状とされ、更に抱持片42、43が斜面に延設されている点で図3に示すものと相違している。符号39Aは収納物取り出し時に区画板39を前傾させる各折線である。

【0026】図9、図10、図14及び図12は、請求項1の発明の実施の一例を示しており、図12に示されるごとく、内ケース44の正面板45の上縁46が、2枚の区画板47、48の各上縁49、50より上位であり、かつ前例の区画板48の上縁50が後例の区画板47の上縁49より低く設定されている。

【0027】前記上縁46、49、50の高さの差は、正面板45、各区画板47、48における抱持片の下端位置入から脚片51A、51B及び下端52の下端53、54、55までの長さL<sub>1</sub>、L<sub>2</sub>、L<sub>3</sub>を前例に沿う程度かく設定することにより達成されている。なお、この高さの差は、各区画板47、48の下端縁56、57と前記下端位置Aとの間の長さの差で設定してもよい。

【0028】図10、図11において、脚片51A、51Bの符号51Cで示す部分は、縦方向の折線51Dで折曲し、図9に示される折曲片52Aの屈曲部52Bに跨架せやすくする折片であり、跨架後に旧位に戻し、区画板47、48の組み付け装置を落成させる部品である。この実施例では正面板45が最後列とされているが、正面板45を最前列とし、その上縁46が最も低い。最後列の区画板47の上縁49が最も高位を占めるようにしてもよい。この実施例の背面板、前覆板、表示耳片の構造、複数は図3、図4に示すものと同一構造である。

【0029】図13は請求項4の発明の実施の一例を示しており、図13は、内ケース58のブランク59を示しており、図3に示す内ケース4のブランク17と同じく、正面板60、背面板61、抱持片62、63、表示耳片64、折曲片65等を具備しており、正面板60の1端縁、図13では右側縁に区画板60が延設されている点で図3に示すブランク17と相違している。

【0030】区画板60は、正面板60の抱持片62の外側縁67部分ではスリットにより切り分けられ、抱持片62の上端部（図13では下端部）68から、正面板60の外部縁69に向って垂下する部分70においてのみ正面板60に連続している。

【0031】図13に示す正面板60、抱持片62、63

64は、図3に示すものと同一手段で折曲、或形されるが区画板60は正面板60の前縁を対峙するよう前記部分70において折曲され、正面板60と重ねられ、区画板66の脚片69A、69Bの下端71、72が正面板60と背面板61との谷折線73、74によって形成される折曲部内側で支持される。なお区画板60の上縁（図では下縁）が正面板60より上位（図では下位）となる設計では、区画板60は正面板60の背面と対峙するよう折曲される。なお、背面板の構造は、図3、図4に示すものと同一である。

【0032】同じく請求項4の発明の他の実施例である図14は、内ケース75の正面板76の図14において他端縁即ち左側縁にも区画板77が延設され、正面板76の右側の区画板78と共に2枚の区画板が正面板76に一連に形成されている実施例であり、正面板76に対する区画板77、78の延設位置の相違により、請求項5の範囲も適用される。

【0033】この図14に示す実施例では、最初に右側の区画板78が正面板76に折り重ねられ、その上に左側の区画板77が折り重ねられることにより図12に示す折り重ね形状と概ね同一形状とされ、各区画板77、78の位置保持は、正面板76との連続部分79、80において行われる。

【0034】図9、図12、図13及び図14において各背面板の構造は図3及び図6に示すものと同一構造であり、各正面板、各区画板の構造も図3、図6、図13に示すものと概ね同一構造である。

【0035】図15及び図16は、請求項4の発明の更に異なる実施例を示しており、図15及び図16に示される各実施例では、区画板60、77、78が何れも正面板60或は76の端縁のうちの前縁から延設されているが、この実施例では、第1の区画板81が正面板82の端縁のうちの上端縁83、84（図15では下端部）から延設され、第2の区画板85が第1の区画板81の上端縁86、87（図15では下端部）から延設されている点で図13、図14に示す実施例と構造上の相違を有している。

【0036】前記正面板82は、脚片88、89の下端（図15では上端部）で背面板90の下端縁に山折線90A、90Bを介して連続する底板91のCに連続し、該下端縁91から正面板82に向って形成された階層二字形のスリット92により、折曲片93が形成されている。

【0037】正面板82は、図4に示される正面板18の半円弧状の上端縁と同等の上端縁94を形成する半円弧状のスリットを切り込まれており、（図15では下向き円弧）該スリットの両端端部には山折線94A、94Bが形成されている。

【0038】前記正面板82と第1の区画板81との間に第1の区画板の延設方向と直交する谷折線96が形

成されており、該谷折線96の形成位置は、山折線94A、94Bの形成位置から延設方向に高さH3を有した位置とされており、この高さH3は、前記下端線91と前記山折線94A、95Bとの距離H2から図16に示す高さH1。即ち図16に示されるごとく、この実施例が折疊成形された段階で、第1の区画板81の上端線95を正面板82の上端線より上位に突出させる高さH1を差し引いた高さに設定されている。

【0039】第1の区画板81は、上端線95を形成するスリットである平行板状のスリットを切り込まれており、その両側端部には山折線95A、95Bが形成され、また第2の区画板82との間に、前記谷折線96と平行する谷折線97が形成されており、谷折線96と谷折線97との間隔H4は、前記距離H2とH3との和に等しくされ、谷折線97と第2の区画板82の上端線98の頂部との距離H5は、図16に示されるごとく、第1の区画板81の上端線95より上位に前記上端線98が位置する適宜長さに設定されている。

【0040】この実施例は、次の手順で折曲成形される。まず谷折線97と山折線95A、95Bとを折曲して第2の区画板82を第1の区画板81の背面側(紙面裏側)へ折曲し、ついで谷折線96と山折線94A、94Bとを折曲して第1の区画板81を第2の区画板82と共に正面板82の背面側(紙面裏側)へ折曲する。次に正面板82と折曲片93とを山折線90A、90Bとで第1、第2の区画板81、82と共に背面板90の背面側(紙面裏側)へ折曲し、全体を反転させることにより、図16に示す形状となる。抱持片99、100は正面板82の前面と対峙するよう折曲される。この実施例においても背面板90、前後板、抱持片等の構造は既述の他の実施例と同一構造であり、また正面板及び第1、第2の区画板に図12に示すごとく、表示耳片を設けることも可能である。

【0041】各請求項の発明において、外ケースから内ケースを引き出すことにより、内ケースの背面板、正面板、区画板の間に抱持された収納物品が取り出し位置にもたらされるが、内ケースの引き出し位置は、いずれの発明においても、共通的に、内ケースの折曲片26、52A、62A、93と、外ケースの係止片15とにより規制されるので、以下図8について、その機能を説明する。内ケース4が外ケース2の開口部3から引き出されると、内ケースの折曲片26が軌跡Xに沿って上昇する。このため外ケース2の係止片15の下端15Bの位置を、外ケースの正面板9の背面との間に軌跡Xを挟む位置に選定しておけば、内ケース4は、折曲片26の上縁が係止片15の下端15Bに接触した位置に係止され、引き出し位置が規制されるし、同様の係止は、抱持片27、28の位置を図8の位置より左寄りに延出した位置とするか又は係止片15の下端15Bの位置を区画板7に近接した位置とすることによっても達成される。

#### 【0042】

【発明の効果】請求項1の発明では、1個の収納容器内の内ケースの物品取納空間が、少なくとも1枚の区画板により、少なくとも2区分されているので、収納されているコンパクトディスク或は等しい等の表面積が接触して損傷するのを良好に防止できる効果を奏するのみでなく、従来の外ケースと内ケースとの組み合わせよりも収納ケースを連続させたものに比し、独立した物品取納空間を複数有するに拘らず、個々の収納容器の体積増を僅少に留め、しかも収納物品の取り出し、収納の手順は、従来の1個の収納容器用の収納容器と殆ど変わらず、取り扱い性能が著しく向上する効果を奏する。

【0043】請求項2の発明によると、内ケースの正面板と背面板とが連続する下端部の屈曲部の内側へ区画板の下端線を挿入し、当接させるのみで、区画板で区分された複数の収納物品を、内ケースの引き出しという動作のみで、同時に取り出し位置もたらすことがで、収納物品の取り出し操作性を著しく向上させうる効果を奏する。

【0044】請求項3の発明によると、区画板の支持部を、内ケース引き出し位置の屈曲部材を兼ねる折曲板をも利用しうるので、区画板の支持結構を、より一層安定させうる効果を奏する。

【0045】請求項4の発明によると、区画板が内ケースの正面板の連続一体に成形されているので、内ケースと区画板とのプランクの打ち抜きが1工程ですみ、また内ケースの折疊成形と区画板の組み込みも單一の工程で完了するので製造工程を著しく簡略化しうる効果を奏する。

【0046】請求項5の発明によると、内ケースの正面板と背面板との間に複数の区画板で複数に区画されている、個々の区画を明確に区分して視認できる効果を奏する。

【0047】請求項6の発明によると、正面板と区画板との少なくとも何れか1枚の、少なくとも1端縁から取納物品を、取納空間内で、抱持板で該方から保持できるので、物品取納状態での収納ケースの運搬等の際に、収納物品の該方の変位を防止でき、収納物品の表面と、正面板、背面板及び区画板の表面との衝撃接觸を、可能な限り防止できる効果を奏する。

【0048】請求項7の発明によると、請求項6の発明の効果に、収納物品の上下方向への変位も防止できる効果を奏する。

【0049】請求項8の発明によると、個々の取納空間に取納されている物品の種別を、取り出すまでもなく容易に視認させうる効果を奏する。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】外ケースのプランクの展開平面図である。

【図2】成形された外ケースの正面図である。

【図3】第1の実施例たる内ケースのプランクの展開平

開閉である。

【図4】第1の実施例の内ケースの前蓋片を折曲する前の正面図である。

【図5】区画板の一例の正面図である。

【図6】区画板の裏側の正面図である。

【図7】図4に示す内ケースに囲み、図6に示す区画板を組み込んだ。図4と同様の正面図である。

【図8】図3に示す外ケースに、1枚の区画板を組み込んだ図4に示す内ケースを挿入した状態を示す略示縦断面図であり、構造を明瞭とするため、必要箇所の寸法を拡大して図示してある。

【図9】別の実施例の内ケースのプランクの縦断平面図である。

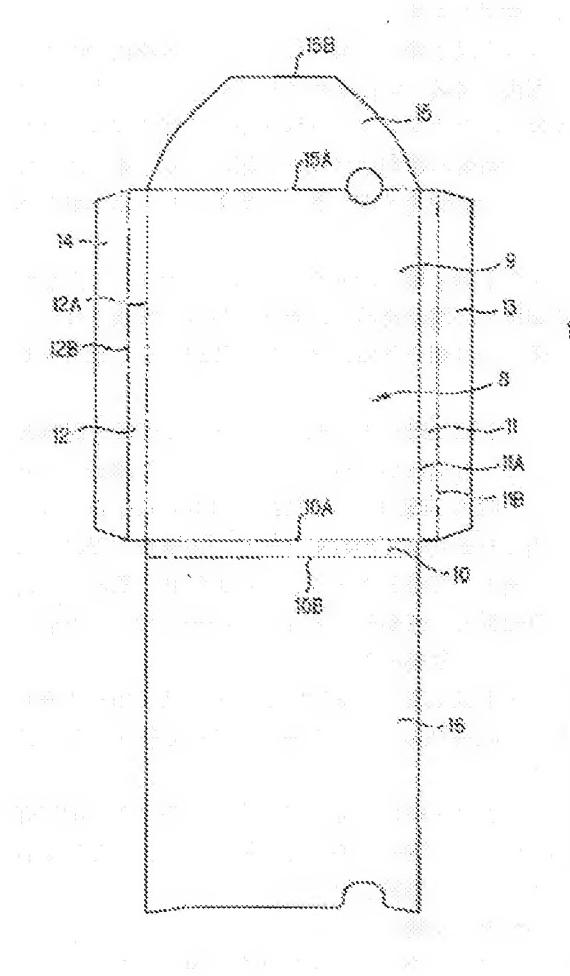
【図10】図9に示す内ケースに組み込まれる異なる区画板の正面図である。

【図11】図9に示す内ケースに組み込まれる異なる区画板の正面図である。

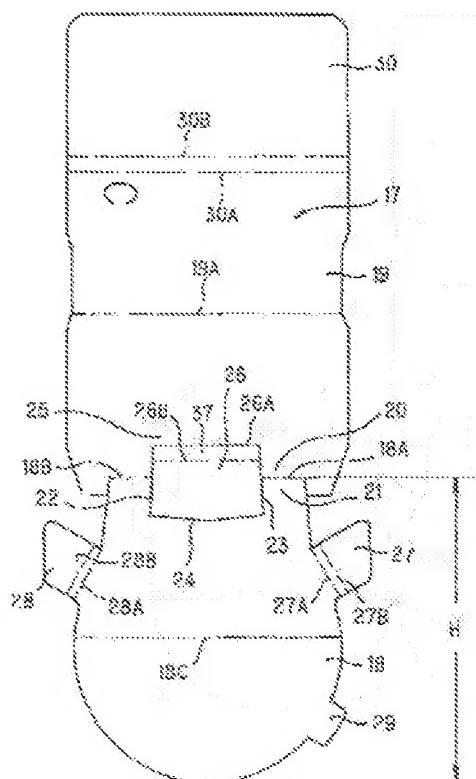
【図12】図9に示されるプランクから成形された内ケースに、図10、図11に示される区画板を組み込んだ、図4と同様の正面図である。

【図13】別の一実施例の内ケースの正面図である。

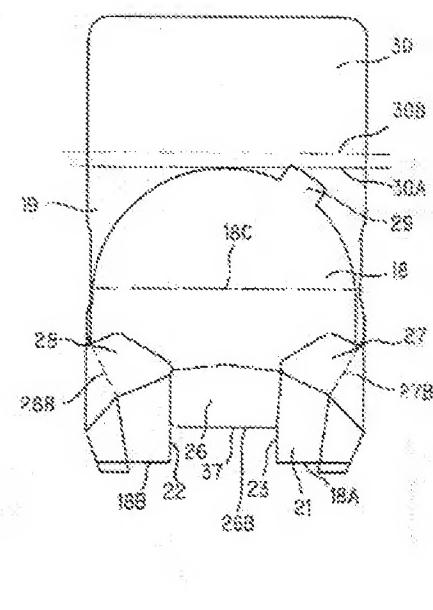
【図1】



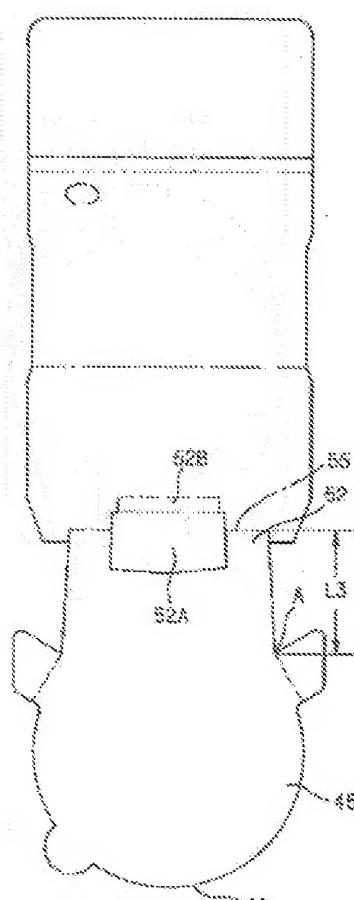
2003



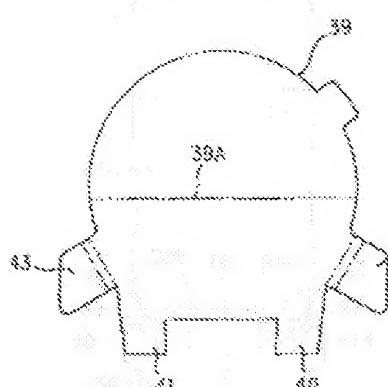
三



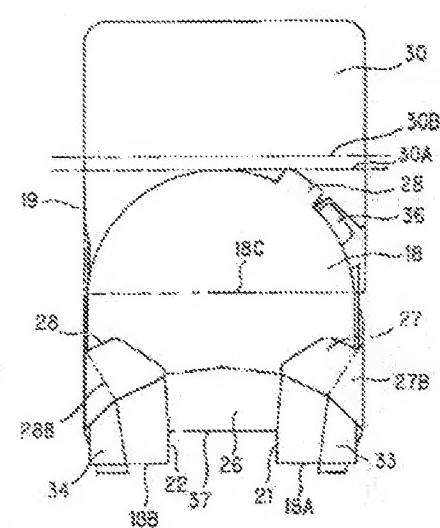
193



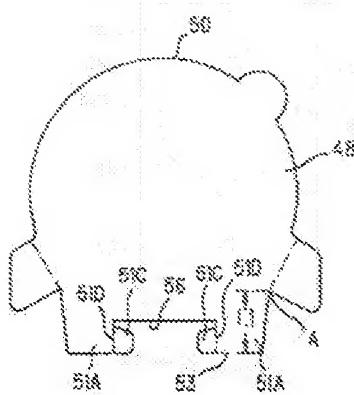
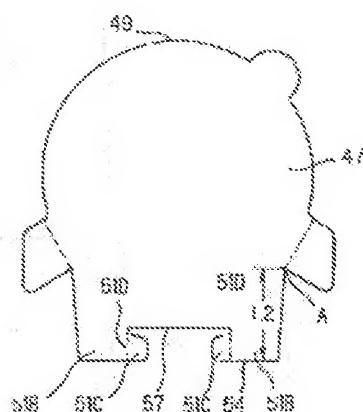
1006

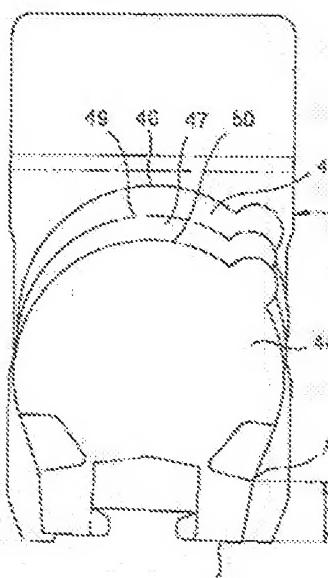


卷之三

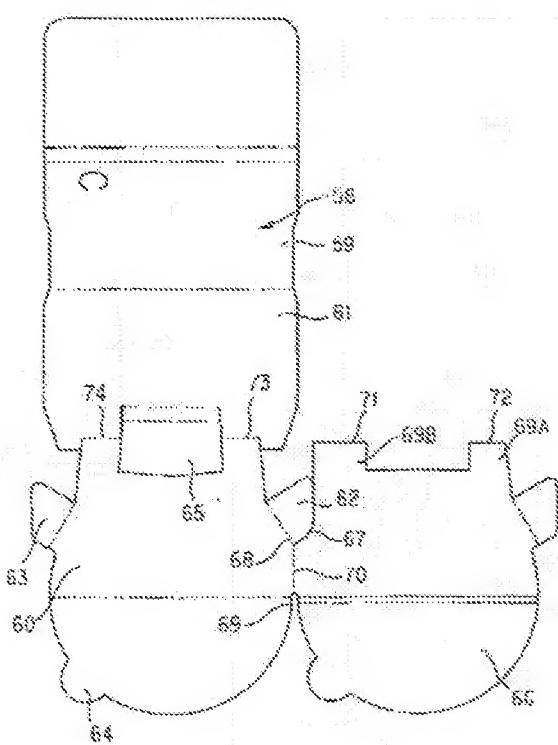


卷之三

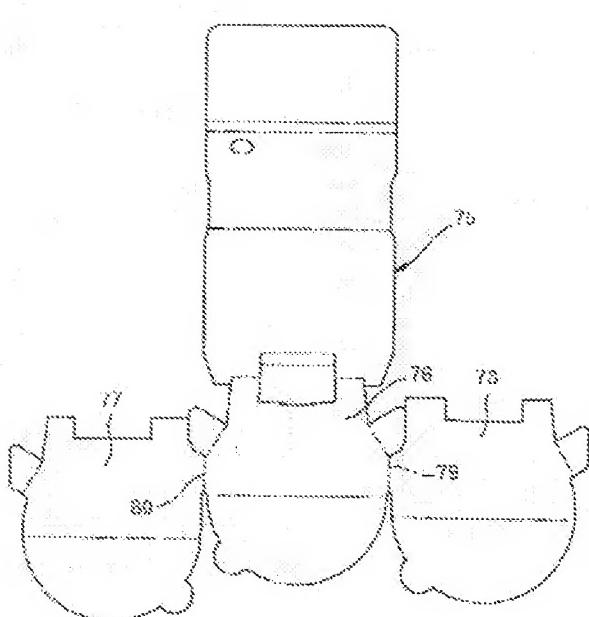




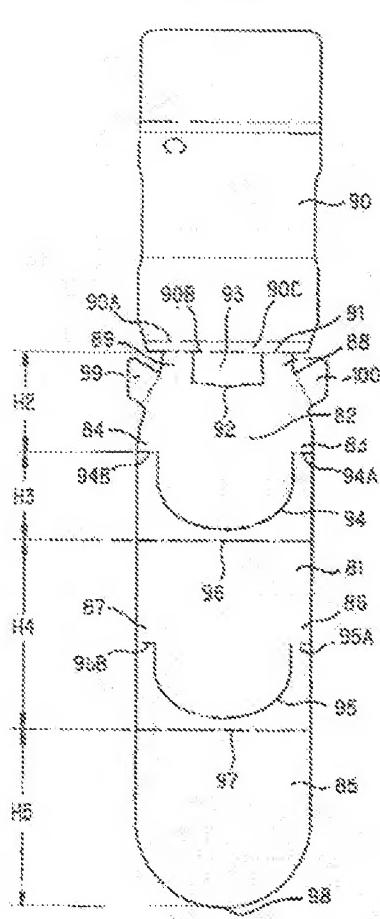
123



卷之三

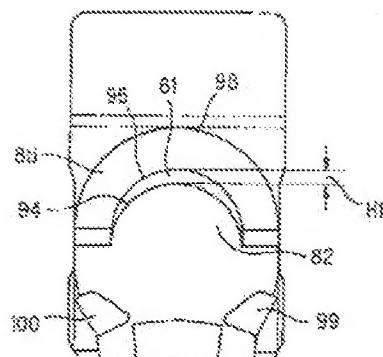


卷之四



163

【図16】



フロントページの続き

(72) 発明者 東 伸彦

東京都新宿区車谷町河原町11番地 十條セ  
ントラル株式会社内

(72) 発明者 駿崎 風治

東京都品川区北品川6-7-35 ソニー株  
式会社内

(73) 発明者 織田 龍二

東京都品川区北品川6-7-35 ソニー株  
式会社内

Fターム(参考) A6036 A605 C001

A0060 A008 A023 A023 B002 C012  
C017 CC18 CC37 CC42 DA17  
DA30 EA20

